

概要（サマリー）

平成30年度再生可能エネルギーに関する ゾーニング基礎情報等の整備・公開等に関する委託業務

再生可能エネルギーの導入は、地球温暖化対策はもとより、エネルギーセキュリティの確保、自立・分散型エネルギーシステムの構築、新規産業・雇用創出等の観点からも重要である。このため、環境省では、今後の再生可能エネルギーの導入普及施策の検討のための基礎資料とすべく、平成21～22年度に「再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査」、平成23～28年度に「再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報整備」、平成29年度に「再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報等の整備・公開等」を実施し、我が国における再生可能エネルギー（太陽光、風力、中小水力、地熱、太陽熱及び地中熱）の賦存量、導入ポテンシャル及びシナリオ別導入可能量の推計等を行い、併せてゾーニング基礎情報を整備したところである。

本業務では、環境省がこれまでに整備した再生可能エネルギーに関する情報・ツールについて、利用者の利便性向上という観点から、WebGISシステムの試作・過年度業務の概要資料の改訂等を行った。

1. WebGIS を利用した情報提供サイトの機能強化の検証

WebGIS を利用した情報提供サイトの機能強化の検証を目的として、システム想定利用者を対象にアンケートを実施し、得られた意見を基に対策案を検討した。検討した対策案の一部は本年度中に実施した。

2. 過年度の再生可能エネルギーのポテンシャル推計に係る算定方法・数値情報の見直し及びデータベースの更新

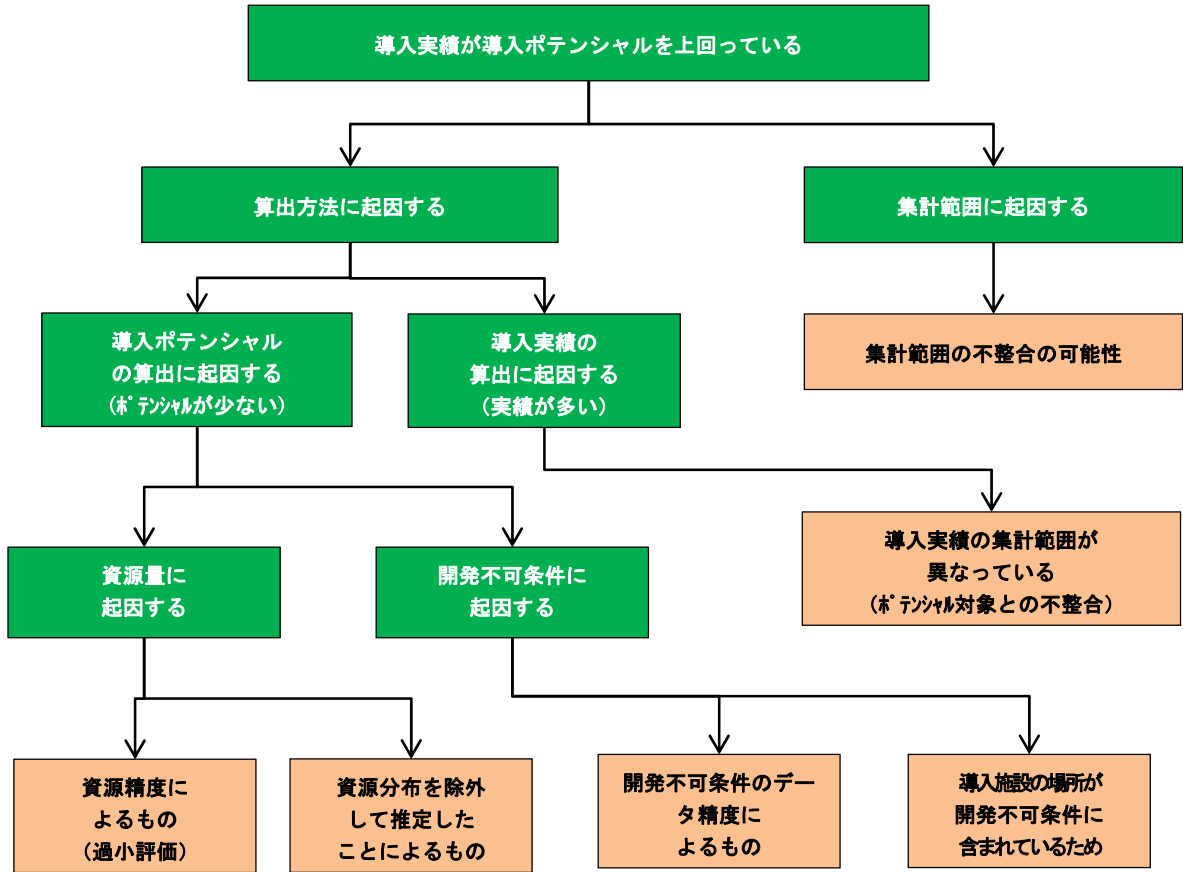
各エネルギー種の自然条件、社会条件（法制度等）、社会条件（事業性等）等に関して、見直すべきポイントがないか各種資料を調査し、見直しポイントについて再推計方法を検討した。

3. 過年度の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル等のとりまとめ・概要資料の改訂

過年度作成したとりまとめ資料・概要資料について一部読者にとってはわかりにくいのではという意見があったことから、さらに平易にまとめた概要資料導入編を作成した。概要資料導入編の想定利用者に対してアンケート調査を実施し意見をとりまとめ適宜加筆・修正を行い更新した。

4. 再生可能エネルギーの導入実績に係る調査・分析の精緻化

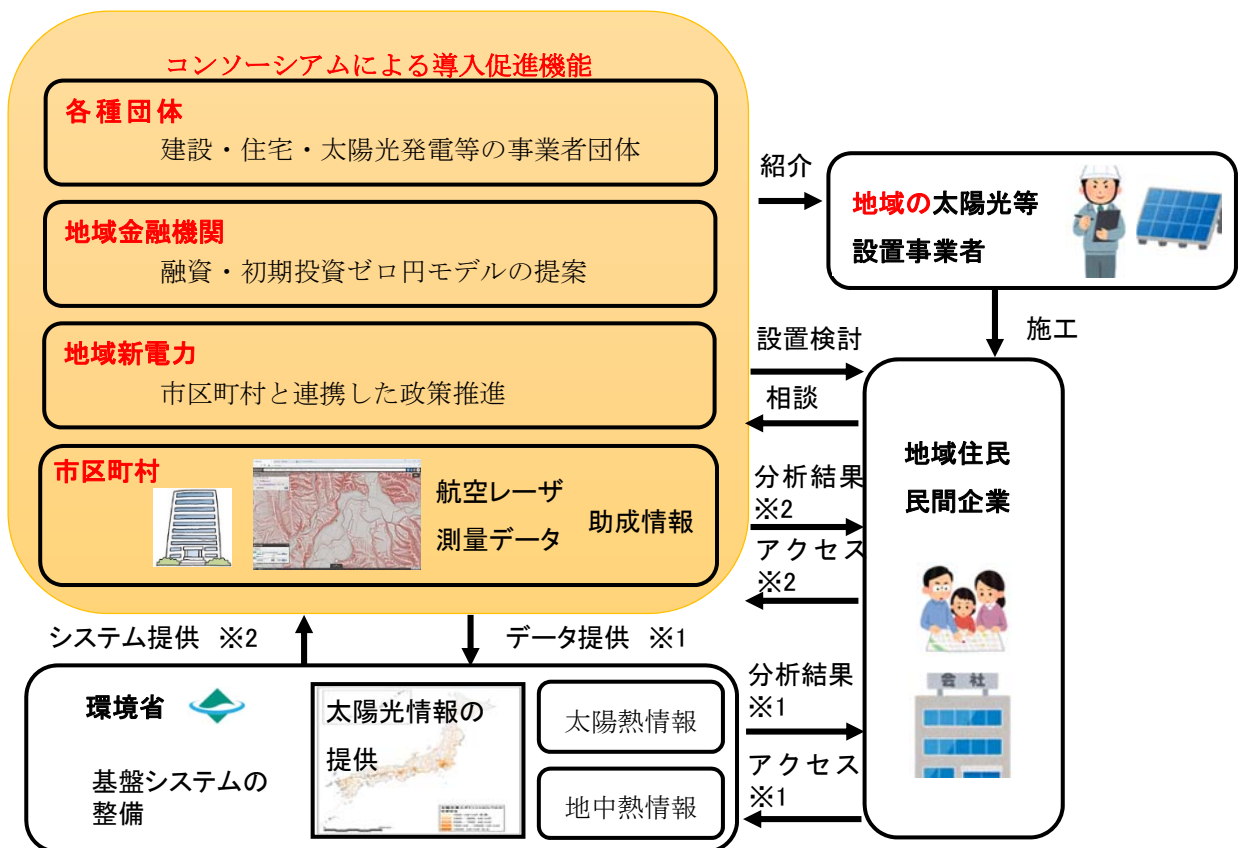
平成 29 年度調査の結果、複数の地域で風力発電（陸上）、中小水力発電、地熱発電の導入実績が導入ポテンシャルを上回る地域が確認されたため、今年度調査ではそれらに該当した自治体を抽出し、その要因について仮説検証型の分析を行った。



図ー1 実績値がポテンシャルを上回るケースの場合分け（仮説）

5. 太陽光発電のマッピングの精緻化作業の基礎検討

既存の太陽光マッピングの事例を踏まえて、再エネ導入促進に繋がる太陽光マッピングのあるべき姿を検討した上で、情報提供に向けたデータ整備・システム構築等の基礎検討、課題の整理、設備導入プロセス及びロードマップの検討等を行った。



※1 コンソーシアムが地域のデータを提供し、環境省がシステム整備・運用をおこなう場合
 ※2 環境省のシステムを用いてコンソーシアムがデータ整備システム運用をおこなう場合
 図-2 太陽光マッピングのあるべき姿のイメージ例 (市区町村・地域新電力主導型)

以上